

サンフロント21 懇話会

〒410-8560
沼津市魚町1番地
サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL.055-962-6520

2021.1.24 No.123



静岡新聞社・静岡放送社長

大石 剛

新年あけましておめでとうございます。昨年、世界は新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の危機に見舞われ、いまだに深刻な状況が続いています。生活様式や仕事のやり方が一変し、誰もが大きな曲がり角に立たされていることを実感しているのではないのでしょうか。新年は模索と試行錯誤の中で、新たな豊かさの礎が築かれることを願っています。

新型コロナの影響で1年延期になったとはいえ、夏に予定される東京五輪・パラリンピックは日本を、そして自転車競技が開かれる静岡県東部を世界にアピールする好機です。伊豆市でトラックとマウンテンバイク、小山町の富士スピードウェイがゴールとなるコースでロードレースが開かれます。ウィズコロナの時代の五輪・パラの先駆モデルとして、感染防止対策を含めたおもてなしに万全の態勢が

求められます。

国内の政治に目をやれば、昨年9月、歴代最長の在職日数とともに1強といわれる強固な基盤で政策を進めた安倍晋三首相が体調悪化で辞任し、菅義偉内閣が発足しました。コロナで冷え込んだ景気の浮揚や元徴用工問題を巡る対韓関係の改善など、課題は山積んでいます。衆院の解散・総選挙の時期も焦点です。

海外では昨年11月の米大統領選で民主党のバイデン政権が誕生しました。米国第一主義を掲げなりふり構わぬ政策を打ち出したトランプ政権の反動を、米国内、国際社会とともに注視する必要があります。特に日本への影響も大きい米中経済摩擦の行方は気がかりです。バイデン氏の政治手腕も未知数といえます。

こうした転換期の中、当懇話会は地域に根差す政策提言集団としての立場を維持し、コロナにも対応しながら活動を進めていきます。昨年は伊豆地区分科会をオンライン形式で開かせていただきました。本年も五輪・パラを契機としたスポーツ産業の推進支援をはじめ、富士山や伊豆の観光振興に取り組み、ファルマバレー・プロジェクトなど地域産業を後押ししていきたいと考えています。会員の皆様には、温かいご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶



静岡県知事

川勝 平太

新しい年となりました。県民の皆様には、希望をもって新年を迎えられたことと存じます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症で私たちの暮らしが一変した一年でした。県民の皆様には不要不急の外出自粛、学校の長期休校、休業要請等、御協力いただきました。また、新しい生活様式の実践をはじめとする感染防止対策に、皆様が一丸となって取り組んでいただいたことに感謝申し上げます。引き続き日々の感染防止対策の徹底をお願いします。

県は、ウィズコロナ・アフターコロナの時代に向け、引き続き感染拡大防止対策と社会経済活動の両立を図ってまいります。医療提供体制の整備・拡充を進めるとともに、新たな地域主導型の経済政策「フジノミクス」を推進し、山梨県や長野県、新潟県と連携した「バイ・山の洲」の取り組みによる財とサービスの消費喚起や、医薬品・医療機器産業の国産化・輸出産業化など、リーディング産業の育成を図ってまいります。

県はこれまで「ポスト東京時代」の理想郷づくりに取り組んでまいりましたが、コロナ禍を契機に、地方暮らしへの関心が高まり、リモートワークも普及するなど、地方回帰の動きが進んでいます。その中で移住先として選ば

れるよう、首都圏との近接性、多様な産業などの本県の強みと美しい自然環境、歴史に培われた文化、豊かな食材などの地域資源を生かした、多様なライフスタイルの選択肢を国内外に発信してまいります。

安全・安心な地域づくりは、最も重要な課題です。防災先進県として、コロナ禍においても自然災害などから県民の皆様の生命や財産、暮らしを守るため、市町と協力し、万全の体制を整えてまいります。

今年、延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。新たな日程と会場が決まり、自転車競技の開催地として気持ちも新たに再スタートを切りました。大会の成功を通して、スポーツの聖地づくりを進め、さらに新型コロナウイルス感染症を克服した、あるいは克服できるという意味を、県内外に発信していきたいと思えます。

本県は、「富国徳の『美しい“ふじのくに”』づくり～静岡県を Dreams come true in Japan の拠点に～」を基本理念とし、ドリームズカムトゥルーインジャパン県政運営に取り組んでまいりました。今年、「静岡県の新ビジョン（県総合計画）」の基本計画が最終年度を迎えます。「総括の仕方が出発の仕方を決める」という考えの下で、これまでの取組を総括し、次期計画策定につなげてまいります。

静岡県が地方回帰のフロントランナーになるよう、「帰去来いぞ、故郷“ふじのくに”へ」をキャッチフレーズに、ウィズコロナ・アフターコロナ時代においても持続可能な地域社会の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

結びに、今年一年の皆様のご健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



沼津市長

頼重 秀一

新年あけましておめでとうございます。

令和3年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、市民の皆様の日常にも多大なる影響を与えた、まさに我慢の年でしたが、戦後最大の国難ともいわれるこの事態に、新年においても引き続き、感染拡大防止と経済活動の両立に向けて万全を期し、この難局を皆様とともに乗り越えてまいりたいと考えております。

また、本年は「第5次沼津市総合計画」がスタートする年であることから、将来都市像である「人・まち・自然が調和し、躍動するまち ～誇り高い沼津を目指して～」の実現に向けて、様々な取り組みにチャレンジしてまいりたいと考えております。

停滞から行動へと大きな一歩を踏み出した鉄道高架事業につきましては、本市のまちづくりの中核をなす事業であることから、着実な進捗を図るとともに、まちづくりにICT等を活用した「沼津版スマートシティ」の推進に向けた体制づくりにも着手してまいります。

また、コロナ禍においてリモートワークなどの働き方改革が進展しましたが、首都圏から近く、働きやすく子育てしやすい環境のPRによる移住の促進や、ワーケーションなどの新たな観点での観光誘客にも取り組んでまいります。

産業面においては、引き続き、域内での消費や地産地消を促進するとともに、中小企業の経営安定化に向けた支援の充実や離職者の再就職の支援など、市内における雇用の確保に努めてまいります。

そして、コロナ禍における健康の維持も危惧される中、スポーツを通じた健康体力づくりを推進するとともに、サイクルーツリズムやフェンシングの普及など、スポーツ人口や交流人口の拡大に繋げる「スポーツを活用したまちづくり」にも力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。

今年一年、市民の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

われら 丑年生まれ



2021年(令和3年)は、十二支が丑(うし)、十干では辛(かのと)です。これらを組み合わせた干支では辛丑(かのと・うし)になります。

辛丑は、辛く大変な出来事を乗り越え、結びつきが強まる年と言われています。古い制度や枠組みを改め、新たな繁栄や成長の礎を築くべき年になるのではないのでしょうか。力を蓄え、整えていくことが大切になるかもしれません。

丑年生まれの人は、忍耐強く、困難にもめげずに目標達成のために日々努力を惜しみません。誠実で地に足が着いた発想を欠かさない丑年生まれのサンフロント21懇話会会員の皆様に、新年の期待や抱負を寄せていただきました。



丸善工業(株)
取締役会長

諏訪部 敏之

昭和12年1月21日生まれ

明けましておめでとうございます。
昭和20年の終戦から始まり、その後、数多くの日本を揺るがす出来事がありました。
その都度、我々日本人は誇りとする勤勉さ、真面目さ、温かい心で難関を克服してきました。
今回のコロナに対しても、その誇りをもってすれば、必ず制圧できるものと確信します。
誇りが消えつつあることが心配ですが。



静岡県議会議員

宮沢 正美

昭和24年5月10日生まれ

新春をことほぎ、心からお喜びを申し上げます。
コロナ禍により社会全体が大きなダメージを受けておりますが、今年こそは希望に満ちた、活力ある静岡県を取り戻せるよう邁進します。
まずは東京オリンピック・パラリンピックの開催を願い、県民に感動と興奮を呼び起こし静岡県の魅力を全世界に発信できるよう努力してまいります。



東静岡運送(株)
取締役会長

鈴木 正二

昭和24年1月2日生まれ

あけましておめでとうございます。
干支が7周目に入り時の流れの速さを痛感しています。
コロナで明け暮れて2年目になりますが、決めてほしい、決めてくれないといった他人(政治・行政)頼みではなく、自分の意思で明るく楽しく生きていきたいと思っております。



赤武エンジニアリング(株)
代表取締役社長

赤堀 肇紀

昭和24年7月27日生まれ

7月、確かに72歳を迎えます。が、60歳頃からでしょうか、いつまでたっても50歳ぐらいで止まっているような気がしてなりません。
いつまでたってもずっと同じところにいるような気がします。
いつになったら大人の仲間入りができるのでしょうか。毎日、毎日知らないばかり。まあ、今後も牛歩のごとく進んで行けばいいのかなと。



(株)大瀧建築事務所
代表取締役

大瀧 博敏

昭和24年10月7日生まれ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

コロナ禍により生活は一変し、今までの環境が大変恵まれていた事、そして人種差別なく「人類はひとつ」だということをコロナは人類に教えています。

本年、開催される TOKYO2020 オリンピック、パラリンピックで、改めて「人類は一つ」だということを、日本のこの地から、自転車競技を通じて世界に向けて発信したいものです。

本年もよろしくお願い致します。



(株)田代新聞センター
代表取締役

田代 寿夫

昭和36年6月5日生まれ

ラジオを恒常的に聴取しています。

最近 SBS ラジオの番組が充実しており、テレビと違った柔軟な番組編成に感心しています。

「温故知新」「終わったメディア」と目されていたラジオも、最近復権を果たしているようで頼もしい。

私も還暦を迎え一から始めるつもりです。



東海金属工業(株)
代表取締役社長

関本 芳英

昭和36年6月13日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

with新型コロナとして迎える最初の新年となりました。当たり前前が楽しみが奪われ(飲み会ですが)辛い日々が続きますが、今がどん底であり、今後は好転しかないと信じ、頑張りたいと思います。

皆様にとって良い年となりますように。



(株)前田建設
代表取締役

前田 磨

昭和36年8月17日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はコロナウイルス感染が経済環境に大きな打撃を与えました。

人も企業も生き残る事ができるのは強い者ではなく、いかに変化に順応できるかが不可欠と言われます。

本年は自身を進化させ、進歩できるように頑張りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



富士通(株)
沼津工場長

大西 真吾

昭和36年8月22日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

富士通沼津工場は今年で開設 45 周年になります。

沼津工場で新入社員研修を受けた私も、とうとう還暦を迎える年になってしまいました。

コロナ禍という厳しい状況ではありますが、静岡県東部地域の活性化に少しでもお力になれるよう、沼津工場長として(おそらく)最後の年をまい進して参ります。

今後とも富士通をよろしくお願い致します。



(株)吉野エージェンシー
代表取締役
吉野 聖一

昭和36年12月4日生まれ

コロナ禍で東京2020が延期されましたが、本年の開催ができますことを願っています。

「人は老いるが、企業は若返ることができる」と言った経営者がいます。国、世界も同じだと考えます。

世の中は大きく変わりますが、世界は基本的に良い方向へ進むので、変化に順応し、向上し自然体で心を新たに日々感謝してまいります。



(株)ホテルニューアカオ
代表取締役社長
赤尾 宣長

昭和60年1月9日生まれ

去年は私共ホテル業にとっては大変な年でした。

コロナ禍の出口が見えるまで、もうしばらく時間がかかりそうですが、平和で穏やかさが戻ってくるよう祈念いたします。

弊社も少しでも新しいビジネスモデルの構築に取り組んでいきたいと思っております。



住友生命保険相互会社
沼津支社長

杉本 恵介

昭和48年2月10日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

去年は「庚子」の名のとおり、大きな変化が生まれた年となりました。

「丑年」は「我慢（耐える）」「これから発展する前触れ（芽が出る）」年とのこと。

これからの未来を切り拓いていくためにも、変化をチャンスと捉え、地域のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。



(株)ミロク
代表取締役

古屋 英将

昭和48年6月5日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

日頃はサンフロント21にお世話になり、楽しく参加させていただいております。

ありがとうございます。

今までのご縁や様々な経験から、48歳を迎える今が、人生で最高の時を刻んでおります。

今後も多くの出会いや、新たな経験から毎年～最高～を更新します。

コロナの影響は今年も続きそうですが、世の中の成長につながると前向きに捉え、地域に貢献できるよう頑張ります。



◎首相、春以降の解散模索 本命は秋、コロナ失速も



共同通信社 政治部長

山根 士郎

菅義偉首相は、3月下旬と見込まれる2021年度予算の成立後、新型コロナウイルスの感染状況も注視しながら衆院解散・総選挙の時期を慎重に探るとみられる。21年の政治日程は窮屈で、9月末に自民党総裁としての任期が切れる中、首相の選択肢は少ない。政界では三つのシナリオがささやかれ、東京五輪・パラリンピックが予定通り行われるのを前提に、開催後の秋との見方が強まっている。ただコロナ対応を誤れば、国民の支持を失いかねず、政権失速の懸念も付きまとう。

通常国会は1月18日に召集され、コロナ禍を受けた追加の経済対策となる20年度第3次補正予算は1月下旬に成立する見通しだ。自民党には、この直後に解散すべきだとの声の一部にくすぶるが、コロナが収束している可能性は低い。解散による政治空白で21年度予算の成立がずれ込むことも避けられず、見送られる方向だ。

コロナ感染拡大が直撃する格好で菅内閣の支持率は急落しており、安倍晋三前首相の「桜を見る会」を巡る政治資金規正法違反問題や、鶏卵生産大手「アキタフーズ」グループ元代表による元農相らへの現金提供疑惑なども選挙戦に影響しかねないとの懸念がある。

次の解散タイミングは21年度予算成立後の春が想定される。国内でもコロナのワクチン接種が始まり、感染も落ち着いているという期待がある。自民党と連立を組む公明党は、夏に予定される東京都議選を重視している。選挙日程が近接するとして難色を示す可能性があり、公明党の理解を得られるかどうか鍵となる。

予算成立後の解散を見送れば、東京五輪・パラリンピック後となる。政治日程的に最も障害が少なく、首相周辺は「五輪の高揚感はプラスに働く」と読む。自民党総裁選で再選を果たした余勢を駆って衆院選に突入できるとの見立てだ。

ただ、支持率が低迷していれば、10月21日の衆院議員任期満了間近で、他の日程を選べない「追込まれ解散」となる恐れがある。現時点で有力な対立候補は見当たらないものの、党総裁選で引きずり下ろされかねないリスクは残る。

◎景気、一進一退へ ＝鍵握るワクチン普及＝



時事通信社 経済部長

樋口 卓也

2021年の景気は一進一退となりそうだ。新型コロナウイルスの「第3波」で、家計の財布のひもは締め、企業は先行きに自信が持てず投資を控えている。「一本調子の景気回復は見込みづらい」（東レ経営研究所）中で、経済正常化に必要なワクチンの普及が鍵を握る。

「今月は過去最低の売り上げだった」（衣料品専門店）、「現状では新規案件がほとんどない」（設計事務所）、「求人はほとんどない」（人材派遣業）。

景気の先行指標として知られる内閣府の景気ウォッチャー調査（20年11月）で紹介された、東海地方の街角の声は厳しい。家計、企業、雇用いずれも、楽観できない日本経済の先行きを暗示している。

日本の実質GDP（国内総生産）は20年4～6月期に年率換算29.2%減となった後、7～9月期に22.9%増まで回復した。ただ金額ベースで見ると、回復幅は27兆円と落ち込んだ分の半分程度だ。緊急事態宣言や諸外国のロックダウン（都市封鎖）で極度に縮小した反動増に過ぎず、10～12月期の伸び率は大幅に鈍化するとみられる。

経済協力開発機構（OECD）の最新見通しによると、20年の日本の実質GDPは5.3%減少し、21年に2.3%増となる見込み。回復力は、米国（21年に3.2%増）やユーロ圏（同3.6%増）と比べ弱い。

待望のワクチンが開発され、英国などで接種も始まった。市場は楽観論に傾き、米ダウ工業株30種平均は史上初の3万ドル、日経平均株価もバブル崩壊後の高値となる2万6千円台を付けた。

だが英調査会社によれば、社会が日常に戻る時期は米国や欧州の主要国が21年中なのに対し、日本は22年4月。ワクチン接種の出遅れが響くという。

1年延期された東京五輪は、景気回復の起爆剤となる可能性を秘める。「人類がコロナに打ち勝った証し」（菅義偉首相）として東京五輪を開けるかどうかは、ワクチンがどこまで普及するかに掛かっている。

サンフロント21懇話会 第26回伊豆地区分科会(オンライン講演会)

コロナ時代の伊豆観光を考える

日時/2020年10月27日(火) 14:00~16:00
 視聴会場/サンフロント9階ミーティングホール



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、サンフロント21懇話会も臨機応変の対応が迫られる中、10月27日、第26回伊豆地区分科会を懇話会としては初めてインターネットで動画を生配信するオンライン形式で開催しました。ウィズコロナ時代の伊豆観光の在り方について、日本総合研究所の藻谷浩介氏に東京のご自宅からご出演いただき、会員各位にはパソコンやスマートフォン等で参加、視聴していただきました。また当日はサンフロント9階ホールでスクリーン上映を行いました。

コロナ禍で打撃を受けた伊豆観光の復興や今後の展望について、データに基づいた藻谷氏の論理的な解説に、参加会員からの生アンケートやクイズを織り交ぜ、ライブ感のある有意義な講演会となりました。

主催者代表挨拶



静岡新聞社常務取締役
谷川 治

本日はサンフロン21懇話会伊豆地区分科会にご参加いただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため、今回、懇話会としては初めて分科会をオンライン講演会として開催することになりました。不行き届きの点もあると思いますがご容赦願います。

新型コロナウイルス感染症拡大は伊豆の基幹産業である観光に大きな影響を与えております。人の移動が制限され、これまで大きな位置を占めていた首都圏や海外からの観光客が大幅に減り、ウィズコロナ時代の方向性を模索している方も多いのではないのでしょうか。

今回の講師は地域振興や人口問題について精力的に研究・提言されている日本総研主席研究員の藻谷浩介さんです。日本や海外各地を自ら歩いた豊富な現場経験を踏まえ、ウィズコロナ時代の観光について示唆に富んだお話をうかがえるものと思います。

サンフロン21懇話会は今年で26年目を迎えました。このように長く活動を維持できるのも、ひとえに会員の皆さまのご支援のおかげであります。あらためて感謝申し上げますとともに、さらなる協力をお願いする次第でございます。

懇話会副代表幹事挨拶

今日はサンフロン21懇話会の伊豆地区分科会を、初のオンライン講演会として開くことになりました。コロナ禍における懇話会活動の一つの試みとしてご理解いただければ幸いです。

講師の藻谷浩介さんは「里山資本主義」「デフレの正体」などの著書でも知られ、コロナ禍における地域社会や経済の将来展望について積極的に発言されています。本日のテーマである伊豆の観光活性化についても、多面的な分析を基に私たちに多くの気づきをもたらしていただけるものと期待しております。

伊豆の観光はコロナ禍の影響で大きな打撃を受けておりますが、世界ジオパークに認定された海や山の景観、かつて多くの文豪が愛してやまなかった宿や食がもたらす素晴らしい文化、近代日本の夜明けを告げた世界遺産など、当地のポテンシャルが一級であることは間違いありません。現場では厳しい現実と直面しながらも、ウィズコロナ時代の新しいビジネスモデルの模索が始まっています。本日は藻谷さんと一緒に伊豆観光の新たな発展の糸口を探ってまいりたいと考えます。

本年度のサンフロン21懇話会の活動は、まさに臨機応変の対応を迫られておりますが、工夫を凝らしながら運営に努めてまいります。会員の皆さまの一層のご支援とご理解をお願い申し上げます。



静岡ガス(株)特別顧問
岩崎 清悟氏

オンライン講演会

コロナ時代の 伊豆観光を考える

■講師 / 地域エコノミスト、日本総合研究所主席研究員
藻谷 浩介氏



コロナはこの冬、再流行するのか？

こんにちは。藻谷でございます。皆さんはリモートには慣れたでしょうか？

講師側してみれば、自宅のできるもので非常に楽ですが、お客様の顔が見えないため反応がつかみにくく、リモートでも同じだという人と現場でやらないとダメだという人がいるようです。

観光も同じですね。テレビが登場した頃、観光地が画面に映るとテレビを見て行った気分になるぞと危惧する声もあったのですが、当たり前ですがテレビと現場ではまったく違います。ということで観光もいよいよリモートが一通りはやった後、やっぱり現場に行ってみようという人が増えるかどうか、真価が問われる時代になると思います。

コロナで実際に何が起きているか、あちこちでお話すると、皆さんが実はあまりよく分かっていないということが分かります。専門家の意見もバラバラです。

そこで皆さんに質問です。この冬、コロナの感染再拡大はあるのかどうか。分からないのは当たり前ですので個人の意見で構いません。今日は100人ぐらいリモート参加していらっしゃるの、全員必ずどちらかに投票をお願いします。

(投票)

はい、ここで締め切ります。

5対1くらいで「あると思う」という人が多いようです。某所で「ない」と答えた人に理由を聞いて

たところ、「春頃、コロナは夏の暑い時期に収まると言っていたが、そんなことはなかった。つまり感染拡大は季節に関係ないでしょう」とのこと。「ある」という人はなんとなく冬だから流行るのではと、あてずっぽうに考えているのかもしれないね。

ところでこの夏、南半球は冬でしたが大流行したでしょうか？オーストラリアのメルボルン周辺のデータを見ると、3月ぐらいに中国の観光客から第一波が来て、政府はすぐに抑え、それから2カ月以上まったく感染者を出さなかった。その後、欧米からの帰国者を隔離していたホテルの従業員から感染が広まり、8月頃、つまり日本で2月頃の季節で最悪1日80人ぐらいになったのです。これが、皆さんが想定している日本の冬に再流行するという理由です。

実は、メルボルンよりも大きな都市で、東京と福岡ぐらい距離があるシドニーでは、第2波はまったく来ませんでした。実際に新型コロナウイルスが冬にはやるかどうか、過去のスペイン風邪やペストの数値だけを基に、実際の数字を見ずに判断する専



門家を信用できますか? 専門家は自説を押し通そうとするあまり、現実を見ようとしないのです。

ニュージーランドでは中国から第一波が来た後、すぐに抑え、3カ月後の冬になって少し出てきたが、迅速に対応し、抑えられた。すなわち、冬になって出ることはあってもしっかり対策を取れば抑えられるということ。したがって私の意見は、どちらかといえば「再流行はない」ですが、これが正しいとも断定できない。実際に起きていることを自分で調べるしかない、ということです。

年代別の罹患率・死亡率を冷静に見よ

客観的に最も参考になるのはダイヤモンド・プリンセス号の事例です。乗員乗客3711人が全員PCR検査を受け、何人陽性だったかが分かっている。世界最初の重要なサンプルです。さて3711人のうち、何割が感染したでしょうか?

彼らは船の中に29日間、換気が3分の1しかできない感染リスクの高い環境下に置かれましたが、実際に感染したのは全体の2割でした。残り8割は約1カ月滞在して感染しなかったのです。したがって当時から既に「そんなに怖がるウイルスではない」というのが現場の認識でした。

罹患した人のうち無症状の人が半分いました。症状が出た人のうち死者は13人で発症者の1.8%、無症状の人も含めた感染者の4%という数字です。これは3月22日のロックダウン以前の講演のために調べたものですから、ロックダウン以降のことは、はっきり言って騒ぎ過ぎだと思っています。

騒いでいる人の話を聞くと、誰もこの状況を確認していません。当時でさえ死亡率は1.8%で、治療方法などが少しずつ解明されつつある今では、1%を切っています。1%を切る死亡率ならば、交通事故以上に怖がることはないといえるでしょう。

日本の場合、中国・武漢からはやったという認識が定着していますが、3月に流行した武漢由来のコロナウイルスは征圧できました。4月以降、欧米からの帰国者がもたらしたコロナウイルスは変異しており、感染力が非常に高かったのですが、6



藻谷 浩介

月までに収束しました。

6月下旬からの第3波は、欧米由来のウイルスが歌舞伎町のホストクラブ周辺で変異したといわれています。ホストクラブ従業員の多くは合宿生活をしており、年齢が若かったので無症状者も多く、無自覚のまま行動し、感染者がワーッと増えた。しかし死亡率は低く抑えられ、あるドクターは「死者数が少ないから、第2波とも第3波とも言えない」とのことでした。

GoToトラベルが始まった9月以降も、陽性判明者が急激に増えるという兆候は見られませんでした。東京が解禁になったとたん増加した。GoToトラベルで当初、東京を外したのは大正解だったのですが、伊豆観光を考えれば外したままでは困るわけで、案の定、解禁後は伊豆でも少しずつ増え出しました。

これまでの状況から、新型コロナウイルスは罹患者の100人に一人は亡くなる。一日の感染者数が500人ならば5人は亡くなる。そういう数字を聞くとあまりいい気持ちにはなりません。他の病気や交通事故死と比べれば極めて低い数字です。

何歳ぐらいの人がどれだけかかったかは、観光地の人はぜひ知っておくべきでしょう。一番多いのは20代で、実数にしたら2万4千人ぐらいです。20代が一番多いのは交通事故の発生率でも同じです。ただしコロナで亡くなった20代は現時点で2人だけです。

30代のコロナ死亡者は6人、40代は17人、50代で51人、60代で157人、80代以上は900人台という数字です。10代は今のところゼロですから、学校の一律閉鎖はやり過ぎともいえる。高齢者は合併症があるから、子どもにウイルスを持ち

帰らせないように、という理由付けでしたが、合併症は子どもにだってあります。小児ガンで亡くなる子どもは年間に450人いますが、ニュースにはならないでしょう。

死亡率を計算してみると、49歳以下のコロナ死亡率はゼロです。風邪と同じですね。ちなみにインフルエンザの死亡率は0.1%です。50代以降になるとインフルエンザよりも高くなりますが、がん死亡率よりは低いのであまり怖がっても仕方ない。

人間というのは考えてみれば約90年に1度は死ぬわけですから、今年死ぬ確率は90分の1＝1.1%。コロナになったから死亡率が高くなるわけではありません。ただし70～80代にとってはハイリスクで、罹患したら死にかけの人が5割以上、という計算になります。

つまりコロナは年齢によって影響に大きな違いがある病気といえる。今まで伊豆で合宿していた大学生がコロナで中止するというのは意味がないし、高齢者が同行しなければ問題ないのです。こういう数字は厚生労働省のデータを調べればちゃんと出てくるのに、マスコミは報道しません。冬になるとコロナがはやるといっても南半球がどうだったかは報道しない。「みんなが言っている」ことしか信用しようとしません。

“インフォデミック”の実態

ここでクイズを出しましょう。次の地域で6月はじめに新型コロナウイルス感染が拡大したのはどこでしょう。

- ニセコ ○成田 ○港区 ○箱根
○富士河口湖 ○白浜 ○別府

(投票)

皆さんの投票ではニセコが一番多いようです。先月の初めにニセコで講演し、同じ質問をしたら、ほぼ全員が「別府」と答えました(笑)。

実は、ニセコは0人、成田5人、箱根3人、富士河口湖0人、白浜0人、別府3人(温泉街は0人)。正解は「港区」359人で、圧倒的な数です。地方の観光地にお客さんが来ないのは、風評被害

以外の何ものでもありません。

100万人当たりで何人感染したかの割合を見ると、地方の観光地はゼロばかりで、圧倒的に多いのは東京23区です。これを全国一元的な問題だとして一律に自粛させるとするのは誤った政策ではないでしょうか。

実数で見ると、全国の“コロナ四天王”は東京、大阪、福岡、沖縄です。いずれも大きな盛り場がある高人口密度の大都市です。

次のクイズです。感染者はどういう場所が多いと思いますか？

- 換気なし ○密接 ○消毒しない
○酒を飲む ○マスクなしで大声

(投票)

皆さんの回答は「マスクなし大声」が多いようです。実は答えは「すべて」です。これまでの感染状況を見れば、「換気のないところで密接しながら大声でマスクなしで酒を飲む」ところで感染している。満員のバスや電車で感染者が出ないのは「マスクなしで、大声で話す人」がいないから。観光旅館もそうですね。カラオケボックスは換気が行き届いているのでクラスターは出ていない。カラオケで発生しているのは換気対策が不十分なバーだけです。

ということは旅行しても大丈夫、というわけで、GoToトラベルが始まって感染者は増えず、東京が加わって緩やかに増加したものの、観光地側でしっかり対策を取っていれば感染拡大することはないといえます。東京都心で多いのは、数少ない接待型飲食業の中で対策不十分のごく一部の、従業員同士が密に住んでいるような店で集中的に発生したため、数字が伸びてしまったわけです。

ここで日本における新型コロナウイルス感染症の影響をまとめてみましょう。

- 命の危険性はインフルエンザよりはるかに低い。
○医療崩壊はしていない。逆に病院を怖がって行かないので病院経営が悪化した。
○公共交通機関でクラスターは発生していないのに人の移動が止まり、乗客4割減。
○一般の飲食店や物販店もクラスターが発生して

いないのになぜか避けられた。

○若者は感染しても死亡しないのに自粛し、経済大ピンチ。

日本は6月、死者が少ないにもかかわらず、GDPが3割減りました。アメリカの死者数は日本の50倍ですが同じ3割減。ヨーロッパは日本の40数倍の死者数で4割減。日本は欧米に比べて死者数が圧倒的に少ないのに、欧米と同様に経済がやられたのです。

テレビの情報番組は「はやるぞ」とあおるほうが、「落ち着け」と言うよりも視聴率が取れるので各局あおる方に転換し、視聴者はパニックになる。それに呼応するようにさらにあおる。その悪循環です。結局、日本ではパンデミック(実際の爆発的感染拡大)ではなく(噂やデマを含めた情報が氾濫する)“インフォデミック”が起きたのです。

東京オリンピックが開催可能な理由

ここで事前にご協力いただいたアンケートの結果をご覧ください。

まずは「東京オリンピックはあると思うか?」という質問。65対7で「ある」が多かったです。世の中では8割の人が「ない」と答えますので、皆さんが前向きな答えで安心しました。もうひとつ「伊豆観光はインバウンド客の獲得を目指すべきか?」。66対6で「目指すべき」でした。私も賛成です。

東日本大震災前後からこれまで、日本の観光で何が起きたのかを見てみましょう。観光や出張等の出先でいくらお金を使ったか、すなわち日本国内における旅行消費はおおよそ20兆円でした。この数字はあまり変化がないのですが、うちグンゲン伸びたのは外国人の消費額です。震災の頃は約8千億円だったのが、今は4兆8千億円。外国人相手に商売をする国内観光業者は4対1の割合で増えています。

再びクイズです。アメリカ、ドイツ、中国、スウェーデン、タイ、日本の6カ国のうち、コロナ死者が最も少ない国はどこでしょう?

(投票)

次の国の中で比べると、新型コロナの累積死者数(10/23現在)が一番少ないのはどこでしょう?

人口規模の影響を消すため、人口100万人当たり直して考えます。

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| ① スウェーデン 586人 | 豪州 36人 |
| ② 米国 676人 | 韓国 9人 |
| ③ ドイツ 121人 | マレーシア 7人 |
| ④ 日本 13人 | NZ、シンガポール 5人 |
| ⑤ 中国 3人 | ベトナム0.4人、台湾0.3人 |
| ⑥ タイ 1人 | 東京33人、神奈川18人
山梨7人、静岡0.5人 |

さすがにアメリカやドイツと答えた人はいませんね。日本が一番少ないという回答が多いようですが、日本より数十倍少なかったのがタイです。スウェーデンは今回コロナを止めず、ロックダウンもしなかったため死者は出た。アメリカは大統領が感染したくらいですし、ドイツは日本の10倍ひどい。

一方、アジアでは中国は3月に感染を無理矢理止めた後、上海では7人しか死なず、タイは強権発動しないにもかかわらず、ほとんど死者が出なかった。韓国も増えていません。

静岡県は人口100万人当たり換算した死者は0.5人。東京から新幹線でたった1時間の地域とは思えない数字です。これは、静岡県の医療体制がしっかりしている証拠。県当局が医療と連携し、死亡率を抑えているのです。東京や神奈川の関係者は静岡県へ勉強に来た方がいいですね。台湾は0.3人ですから静岡県とほぼ同じ。台湾人は東京ではなく静岡空港を利用したほうが安全なのです。

インフルエンザ死亡者を同じ基準で調べると100万人当たり28人、数で言えば全国で年間3,600人でここ数年、急激に増えています。毒性が強まっているようで夏でも流行し、去年は9月だけで1,000人亡くなっています。しかし誰も騒がないのでニュースにもなりません。

現時点で、コロナで亡くなっている人は1,700人、昨年、インフルエンザで亡くなっている人は3,600人ですからコロナの2倍以上なのに、コロナは死ぬほど騒ぐので、全国民がフリーズしてしまった。人間は「事実」ではなく「人が何を言っているか」に関心があるからです。

今年は全国民がマスクをしているので、インフルエンザはまったくはやっていません。8月に至って

は全国でインフルに罹患した人が2人しかいなかった。この冬、インフルとコロナの同時流行を心配している人が多いようですが、インフルは大丈夫だろうと思います。特に静岡県の人にはそんなに騒ぐ必要はない。

アジアでは、フィリピンとインドネシアを除けば日本は感染者数が多い方ですが、アジア全体を見れば欧米に比べたら圧倒的に少ない。オリンピックを行う権限はIOCが持っており、バハ会長はドイツ人です。ヨーロッパから見れば、日本でオリンピックをやります、と言えば、「行きます!」と言うはず。なぜなら自国より日本のほうが安全だからです。オリンピックの大きな収入源はアメリカの放送局で、大統領選挙が終わった後の目玉はオリンピックですから、やってほしいに決まっています。

逆に、中国では、選手が日本に行って感染して帰ってこれたら困るので、中国政府は止めるかもしれませんが、欧米の選手は2週間前に入国してもらい、隔離して合宿してもらえばいいし、アジアの選手は大会終了後に2週間日本国内に滞在してもらって、帰国の時、しっかり検査を受けてもらう。これをやれば開催可能でしょう。

一般観戦者を入国させるかどうかは難しいと思われませんが、アジアの人なら問題ない。東京と比べてもアジアははるかに感染者が少ないのです。

GoToトラベルで東京を解禁した菅政権は、死者33人の東京人の移動を認めたのですから、死者3人の中国人を止める理由はない。菅さんは、説明能力はない人かもしれませんが、合理的に判断する人ですから、やると決断するでしょう。

インバウンドが復活する理由

世界70億人のうち、コロナの死亡率は実は下がっています。アメリカの感染者は相変わらず増えていますが、死者は減っています。ヨーロッパも感染者は増えても死者は減っている。

感染を完全に抑え込んでいる中国、台湾、タイや、出ても抑えることができる韓国と日本は交流可能だといえる。世界的に見ても韓国と日本が交流

再開するのが最も合理的です。その上でインバウンドの行方を考えてみましょう。

まず、2019年の訪日外国人のうち、各国の人口を基に「何人に1人日本に来たのか」を見ると、アメリカ人は187人に1人が日本に来ました。中国人はアメリカと違ってビザが必要なので143人に1人という数字でした。

そこでクイズ。韓国からは何人に1人が日本に来たでしょうか。選択肢は300人、100人、10人のうちから選んでみてください。

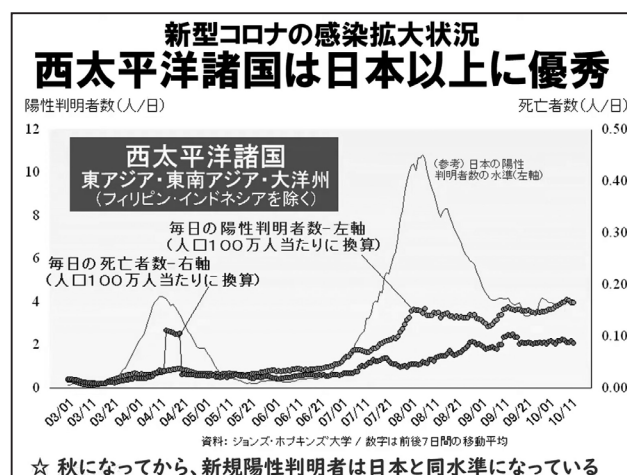
(投票)

半数が100人に1人との回答でしたが、正解は「9人に1人」です。中国人と韓国人でこれほど数字が違うのは、なんだかんだで韓国人は日本が大好きなんですね。

韓国人よりも日本が好きなのが台湾人で、台湾は「5人に1人」です。ビザなしの香港からはなんと「3人に1人」。ディズニーランドに行く日本人よりも多い頻度と言っていいでしょう。皆さんが思うよりケタが一つ違うのです。

オーストラリアは「39人に1人」です。オーストラリア～日本は、アメリカ西海岸～日本と同じ9時間かかり、費用も安くはないのですが、アメリカ人よりも4倍以上日本に来ている。こういう数字を見て、中国人が今のままで済むと思いますか?台湾人が5人に1人来ているなら、中国人が50人に1人来てもおかしくないはず。カリフォルニアも1億人以上住んでいますから、こんな数字で留まるはずはない。つまり今までの数字は序の口なのです。

タイは50人に1人。マレーシアも60人に1人。



インドネシアは600人に1人しか来ていませんが、マレーシア並みになれば今の10倍に増えます。ベトナムは189人に1人ですが、これもタイ並みに増える可能性がある。だから菅さんは最初にベトナムを訪問したのです。

何を意味しているかということ、インバウンドは“放っておいても増える”ということ。アジアの人から見れば日本は“近所のお庭”のような感覚です。そばにすごくキレイな国があったら何度でも行く。富士山と同じで1年に1回は見に行こうかという感覚です。

そうすると、今のままでは空港がパンクし、ホテル旅館のサービスが低下するでしょう。バブルの時、いいかげんな対応をした旅館が軒並みダメになったことを思い出して下さい。本格的なバブルは今から来るのです。そしてそれに失敗すると今度こそアウトです。

伊豆の弱点は『交通不便』ではない

10年に1度のコロナや大地震で売上げが激減しても、生き残る人はしっかり生き残ります。儲かるうちにきっちりキャッシュを貯めている人です。これは飲食業でも同じで、ワタミが居酒屋から焼肉店に業態転換することになりましたね。安い居酒屋ではキャッシュが貯まらない。少ない客でも儲かる焼肉店にしないと生き残れないからです。

宿泊業も同じです。客単価を安くして客数を増やすというやり方は得策ではない。増やすためには投資が必要になり、投資完了した頃に客が激減する可能性があります。

そうではなく、1円でも高い部屋に泊まる客を増やすべきです。20室に増築するのではなく、10室でも1室あたり2倍の客単価を取れる宿にするべきです。

伊豆はバブル期以降、30年間伸び悩んでいる地域です。熱海が復活したと言っても、元を知っている人間からすればはるかに下の状態で、中伊豆は温泉地の魅力がなくなり、南伊豆に至っては人口がどんどん減っている。なぜでしょうか。

皆さんの事前アンケートをもう一度見てみましょう。伊豆観光の最大のマイナス点は何ですかという質問です。

- 値段が高すぎる
- 知名度が低い
- 交通が不便
- アクティビティの中身に時代が対応していない

このうち圧倒的多数は「交通が不便」でした。アクティビティの中身が悪いと答えた人よりも2倍多い。伊豆がダメな理由はハッキリ言えばこれです。

ここで皆さんにクイズ。以下の地域で、東京駅から公共交通機関を使い、伊豆の下田よりも早く着く観光地はどこでしょうか？

○松本城 ○富士急ハイランド ○大阪城

○会津若松 ○琵琶湖

(投票)

伊豆下田よりも早く着ける場所は、実はこの中で琵琶湖しかありません。大阪城と答えた人が一番多いようですが、新大阪から在来線乗り換えると結構かかるのです。

琵琶湖は確かにきれいで知名度もあり、交通も便利ですが、あまり観光客は行かない。交通が便利だからという理由で栄えた観光地は存在しないのです。

日本の観光に起きている変化を見てみると、宿泊は横ばいで日帰りが減っています。大きく変化したのは宿泊の客単価。1泊2日より2泊3日以上の長期滞在で増加しているのです。

伊豆の皆さんは宿泊客の消費をちゃんと売り上げにできていますか？交通が不便だと言っている限り、それはできない。道が良くなったところで、自家用車の日帰り客が増えただけです。日帰り客は道の駅やセブンイレブンで買い物するだけで地元土産店には寄らない。車で来ると酒は飲まない。運転手に遠慮して他の人も飲まないから、飲食店の売上げが伸びないのです。

自分もバブルの頃、伊豆に来るたびに道が良くなればいいなと思っていましたが、実際に道が良くなりすぎると日帰り客が増え、ゆったり泊まる人が減ってしまいました。旅館側も昭和の団体対応から抜けきれず、毎日同じような食事を出す。いくら

Segmentation & Targeting こっちの視点よりも客からの視点 <small>セグメンテーション</small> 客を分類して、狙いをつけることが大事	Positioning こっちの視点よりも客からの視点 <small>ターゲティング</small> 客を分類して、狙いをつけることが大事
<small>誰でも同じに相手にするのではなく、利益や経済効果が出る相手を優遇せよ (とにかく客数が増えればいいと、日帰客や団体客に尽くしても、利益は乏しい)</small> <small>■ 上客の基準は、高マージン(高単価ないし低コスト)、高リピート率、良い情報源 (代理店を通さずに個人で予約して、1泊よりも2泊3泊と滞在する客が、一番の上客)</small> <small>ポジショニング=客側の「買う言い訳」</small>	
もっと大事なのが、客にとって私は何？という視点 <small>■ 狙った相手にしてみれば、人吉は「無数にある選択肢の中の一つ」 (人吉に何の思い入れもない人の立場に立って考えてみなければならない)</small> <small>■ どういう相手がなぜ、敢えて人吉を選ぶのか、明確にイメージして売り出す! (人吉を選ぶことが相手にとって最も有利で必然、という状況を作り出そう)</small>	
客の来る地域は「行く言い訳」が立つ地域!	

泊食分離を唱えても増えていません。連泊客なら1食は地元のラーメン屋さんでもいいのに、旅館側はなぜか週末の1泊2食の対応しか考えない。どうせなら日曜も泊まって食事なしにして月曜朝に帰ってもらう。そのほうがよっぽどわかります。

未だに伊豆では昭和の時代の1泊2食の団体対応から抜け切れていない人が多く、ライバルは箱根だと思っています。そうではなく、真のライバルは沖縄であり都心のホテル。お台場のホテルか伊豆か、なんです。

沖縄は変化が非常に早く、平成どころか令和時代の新しいアプリケーションが次々出ている。海のキレイな丘の上に美味しいイタリアンレストランがあって近くのおしゃれなペンションに泊まる。こういうのがどんどん増え、お客様も伊豆よりはるかに不便な沖縄にどんどん行っている。パック旅行なら7~8万円で行けますから伊豆とそんなに大差はない。交通が不便でも中身が良ければ行くのです。

単価の高い宿泊客を増やせ

私は56歳ですが、バブル期に若かった人がそろそろ経営に入っている頃だと思います。平成2年のバブル期に40~50代だった戦前生まれの人は、団体旅行の経験しかありません。職場旅行しかないのです。

私が務めていた会社は、課長や部長や役員社長は全員戦前生まれで、入社2年目当時、課の旅行、部の旅行、会社の旅行がありました。その翌年、課長が戦後生まれに替わったとたんに課の旅行が

なくなり、数年後、部長が戦後生まれになると部の旅行がなくなり、10年後には会社の旅行がなくなりました。

30年後の今、全員が年を取りました。このことを自覚せずバブル期が繰り返すと思ったら間違いです。いつときクラブツーリズムが流行りましたが今は客が減っている。JTBも2割店を減らすと言いました。50代以下は個人でネット予約をします。若者人口が激減していますから修学旅行も減っている。

子育て世代が減り、子どものいない高所得者の夫婦が増え、客単価は上がっています。外国人も単価が上げていくのは同じです。

エアラインは安い料金で何往復もしてもらうほうがわかります。台湾人なら1週間に1回日帰りで来てもらうほうがもうかる。しかし宿泊はそうではありません。1年に1回、1週間滞在してもらうほうがもうかるのです。とにかく客単価の高い滞在客を増やすこと。3泊すればうち2食は量ではなく質でうまく勝負する。そのためにもメガ盛りの食事はやめることです。クルーズ客は提携の土産物店に連れて行くだけですから相手にしなくてもいい。圧倒的に宿泊客を増やすことが肝要です。

ストーリーに頼らず五感で感じる伊豆を

これからは、いいお客様を取るということを意識して下さい。10人いればうち2人が上客で、利益はこの2割の上客がもたらすといえます。

上客とは「地元の物を出せ」という客。「スーパー

Strategy

「戦略」即ち、捨てる集中すること

利益の8割は、顧客の2割の「上客」から来る

- 人吉を本当に評価し何度も来てくれる客筋を発見して、その評価を高めよう (値段を高くしたらほいほい切られる、というのではない客筋を見つけよう)
- 最大の宣伝は、評価してくれる客筋の口コミ! (逆に最大のマイナスは、不満のまま黙って去った客が市場で広める悪評...)

Core Competence

「本当の強み」を客の立場から冷静に考える

- 人吉の本当の強みは、リピーターが知っている! (自分で勝手に思い込んでいる強み弱みは、現実からずれていることが多い)
- 本当の強みがない...! ときは、小さいものから育てるしかない!! (強みではなく流れて続いているに過ぎないものは、捨てていくしかない)

2割の上客は、「地元のもの」を求めている

- 「良いもの」ではなく、「地元=ここにしかないもの」が、唯一本当の強みになる

「ドライはないの?」ではなく「地ビール、地酒を出せ」というお客様です。そういう客は2割ぐらいしかいませんが、地元のいい物を出せばいくらでも払います。

伊豆の大きな特徴は魚の種類が他とは違うこと。長野に時々行くフレンチがあり、伊豆の魚を取り寄せるんですが、日本海の魚とは違うといえます。築地でもめったに出ない地魚を出せるかどうかです。

上客を増やす上で大切なのは、お客様から見て伊豆は何かという視点。お客様自身、伊豆に行く理由がはっきり言えるかどうかです。

山口百恵の伊豆の踊子の舞台だからという理由は、さすがに今は通じないでしょう。30代でタワーマンションに住んでいるようなニューリッチ世代が、「他では食べられない魚がある」とか「ハワイに行くより感染リスクがなく、はるかに安全で自然豊かで癒やされる」と言ってくれるかどうか。沖縄でもディズニーランドでもなく、伊豆だから、という視点ですね。

最近、ストーリー付けというのがはやっていますが、ストーリーはこちら側の押しつけに過ぎません。伊豆に行く言い訳は「おいしい」「癒やされる」といった単純なフレーズで伝える必要があります。

フィリピン海プレートに乗っかっている日本で唯一の場所である伊豆は、地質や地形が珍しく生物体や植生も異なり、独特の風土を持っています。それを理屈で説明しても誰も感動しません。味、匂い、色といった五感で感じてもらう仕掛けが必要です。

なぜ堂ヶ島の洞窟の天井に穴が空いているか、ストーリーと称して口で説明してもピンと来ないでしょう。洞窟の天井に穴が空いているのは日本でここだけ。風が上から吹き込んで空が見えるという不思議な感覚が体感できる。感覚で風土を感じてもらえばまた来てもらえるのです。コンサートのプロデュースをしているような人ならわかると思います。

伊豆は、日本の中に南の島がわざわざ流れてぶつかっている、日本の中にタヒチがあるような貴重

な場所です。南伊豆は沖縄よりもはるかにきれいな珊瑚礁がある。勝手に沖縄がやってきたような場所です。そのことをちゃんと売らないと。ライバルは箱根ではないのです。

外国人に対しても同じです。欧米人はビーチがあれば、ビーチでビールを飲みたくなるもので、沖縄のビーチにはそれができる。伊豆の海岸ビーチでもぜひそうすべきです。

伊豆にはビーチから山へ一歩入るとタヒチのような滝がある。これは沖縄にはありません。東京の真横にありながらタヒチみたいな場所で、美味しい魚が食べられる。昔は北前船が通った表航路であり、ペリーも来てハリスも住んだ。箱根に泊まっただけでは分からない魅力が伊豆にはたくさんあるのです。

道路ができて日帰りしない人をどうやって増やすか、来年はオリンピックもありますから、今からしっかり対策を考えておいてください。

〈講師プロフィール〉

藻谷 浩介 (もたに・こうすけ) 氏

1964年、山口県生まれ。平成合併前の全国3200市町のすべて、海外100カ国以上を自費で訪問し、地域振興や人口問題について精力的に研究、講演を行っている。主な著作は「里山資本主義」「デフレの正体」など。サンフロント21懇話会には、2004年の富士地区分科会にパネリストとして参加。



伊豆地区分科会・参加者の声

初のオンライン開催でアンケート実施 「客単価高める」に多くが賛同

初のオンライン開催となった伊豆地区分科会について、サンフロント21 懇話会事務局は全会員を対象に郵送によるアンケート調査を実施した。ファクスで回答を寄せてもらった結果、今回の講演会が伊豆観光の方向性やコロナ感染の実態について、視聴者に多くの気付きをもたらしたことがうかがえた。また、オンライン開催という形についても、好意的に受け止める声が多く聞かれた。

伊豆観光に関しては、講師の藻谷浩介氏が強調した「客単価を高めるために、上客や滞在客を増やす」に賛同する意見が多かった。「地域を挙げて高単価化できるよう、魅力向上に努めたい」「質の高いもてなしで、複数泊してもらう仕掛けが必要」「高単価、少数のお客様を相手にするマーケットづくりが求められる」などの感想があった。

藻谷氏の「交通の不便さを、伸び悩みの原因とする意識が問題」との提起には、「不振を交通事情のせいにしていた私たちには耳の痛い話だが、指摘の通り」「『交通アクセスは言い訳』は、まさにその通り」などの声があった。藻谷氏の「道が良くなり過ぎると日帰り客が増え、ゆったり泊まる人が減った」との指摘に関連し、「良くなる道路を生かして、さらに魅力を高める取り組みについて議論すべき」との提案も寄せられた。

伊豆の魅力について藻谷氏が「フィリピン海プレートに乗った火山地帯ならではの、日本の中にタヒチがあるような貴重な場所」と表現し、独特の風土を五感で味わってもらう仕掛けが重

要とした点に関しては、「伊豆のポテンシャルに新たな気付きを与えてもらった」「地元の強みを強化し、光らせることが必要」などの声があった。

新型コロナウイルス感染症の実態説明に対しては、「感情や感覚ではなく、データで判断する視点はとても重要」「海外の状況を学び、コロナに対する新たな認識が生まれた」「パンデミックというより、日本で起きているのはインフォデミックだというのは自分も前から感じていたので共感できた」などの感想が聞かれた。

オンライン形式での開催については、「コロナ禍における分科会の開催形式として、今後も当然必要となる形態だと思う」「本来は一つの会場に皆さん顔を合わせて開催するのがベストだと思いますが、このような状況下ではオンライン形式で良かった」「質問形式による双方向の講演会だったので、ライブ感があって良かった」「その場で質問、回答、集計、グラフ表示とwebの機能をうまく活用していた」「オンラインは移動に時間が取られないのでありがたい」などの声が寄せられた。



2020年度 役員会

地域創生に向け4活動テーマの一層の推進を 新産業創出や観光などを支援

開催/2020年5月29日(金)

会場/サンフロント9Fミーティングホール



サンフロント21懇話会は5月29日、沼津市のサンフロントビルで役員会を開き、2020年度活動方針を承認した。新型コロナウイルス感染症に対応し、総会に代えて開催した。

活動方針は、地域創生につながる新産業創出など4テーマに引き続き取り組むとし、県東部で自転車競技が開かれる東京五輪・パラリンピックを契機としたスポーツ産業の推進、ファルマバレーや農業の生産性革新を図るアグリオープンイノベーションなどのプロジェクト推進への支援、観光産業での新たな展開の提案などを盛り込んだ。

動物愛護と福祉思想の普及や沼津市の原・浮島地区でのサッカー新スタジアムなどのまちづくり構想実現も支援していく。

谷川治静岡新聞社常務は「新型コロナウイルスの影響で東京五輪・パラリンピックは1年延期となったが、東部地区にとって大きなチャンスであることには変わりない。現状から学び、次のステップに生かすために今は我慢の時。知恵を結集し、力を合わせて乗り切っていきたい」とあいさつした。

懇話会の岩崎清悟副代表幹事は「東京五輪・パラリンピックではぜひ、海外との交流を深め、地域の振興につなげていきたい。コロナ災禍で観光関連産業は大打撃を受けているが、何とか乗り越え次なる発展につなげるべく、伊豆の魅力を高め、広めるための支援を継続したい」と力を込めた。

2020年度 活動方針

中長期的な視点で継続的に取り組む提言・支援活動

- ▽地域創生につながる新産業創出と既存産業の持続的発展を支援
- ▽新たな観光価値創造への取り組みを支援
- ▽動物愛護と福祉思想の普及活動支援と新たな展開を支援
- ▽「原・浮島地区まちづくり構想」実現に向けた支援

地域創生につながる新産業創出と 既存産業の持続的発展を支援

●東京五輪・パラリンピック開催を契機とするスポーツ産業の推進を支援

伊豆市で東京五輪・パラリンピックの自転車トラック競技やMTB（マウンテンバイク）競技が開催され、ロードレースは富士山麓を周回し、小山町の富士スピードウェイがゴールというコースになります。自転車競技は欧州を中心に非常に人気がある競技です。これを新たなスポーツ人口拡大と新産業創出の機会に捉え、県東部の20市町が広域的に連携しサイクルツーリズムをはじめ新たな観光交流の促進、既存産業のスポーツ産業参入につなげていきたいと思えます。富士山や伊豆半島の観光産業、地域産業の振興までを視野に入れた支援活動を実施していきます。

また五輪・パラリンピックの終了後もレガシー（遺産）の構築についても支援をしていきます。

●ファルマバレー、アグリオープンイノベーションなどのプロジェクト推進

2016年に新産業の研究開発拠点ファルマバレーセンターが、静岡がんセンターに隣接して開

設されました。静岡県が掲げる健康寿命延伸および新産業創出の視点から、ファルマバレー・プロジェクトで進めている、人生100年時代へ向けた自立支援に必要なモノづくりのコンソーシアム構築、及び人材の育成・活用について支援をしていきます。

また2017年には沼津市に農業の先端技術研究拠点「A O I - P A R C」が開所されました。「農・食・健」の連携により農業の先端技術を開発し、農業の生産性革新を図るアグリ・オープンイノベーションプロジェクトの拠点となっています。研究、生産や流通、販売までを含む6次産業化を目指した新たな構想の支援についても考えていきます。

さらに2019年に新設された「水産・食品・創薬」のマリンバイオテクノロジーを核としたイノベーションによる地域の振興や産業の創出を目指す「M a O I」プロジェクトについての支援も検討をしていきます。

●セルロースナノファイバー（CNF）実用化へ認知度向上を支援

木材繊維を高度にナノ化した「セルロースナノファイバー（CNF）」は、未来の素材として研究が進められています。鋼鉄の5倍の強度を持ち、

軽くて加工しやすい上、原料は杉ヒノキなどごく一般的な針葉樹と資源に乏しい日本にとって格好の素材です。食品や化粧品なども含め広い分野での製品化も進んでいます。富士市など県東部には紙パルプ製紙業の蓄積があり、CNF事業拠点となり得る可能性が高いと考えられます。用途開発や実用化に向けた認知度向上、情報発信に関する支援をしていきます。

新たな観光価値創造への 取り組みを支援

●観光産業での新たな展開を提案

伊豆の国市の「葦山反射炉ガイダンスセンター」、富士宮市の「富士山世界遺産センター」はいずれも独自の世界遺産の価値を学ぶ新たな観光の拠点となっています。学習型観光を深めリピーターの育成につなげ、持続的に観光地の経済振興に寄与していきます。

またヘルスツーリズムやサイクルツーリズムとの連動も考えます。県東部を中心にプロサイクルチーム結成の声が上がっています。地域と連携を取りながら支援をしていきたいと思ひます。

2019年1月に伊豆縦貫道を構成する天城北道路が全線開通し、下船原まで伸びました。“現代の天城越え”区間とも呼べる計画も進み、格段の観光振興が期待されます。広く観光価値創造への支援をします。

●伊豆半島の魅力を明確化、情報発信を支援

地域活性化につなげる取り組みとして、川端康成をはじめ数多の文豪を虜にしてきた伊豆ならではの宿、食、温泉といった魅力を明確化し、新たな観光誘客やまちづくりを支援していきます。

ユネスコから「世界ジオパーク」として認定を受けた伊豆半島ジオパークも、その活用に向けた支援策を検討していきます。

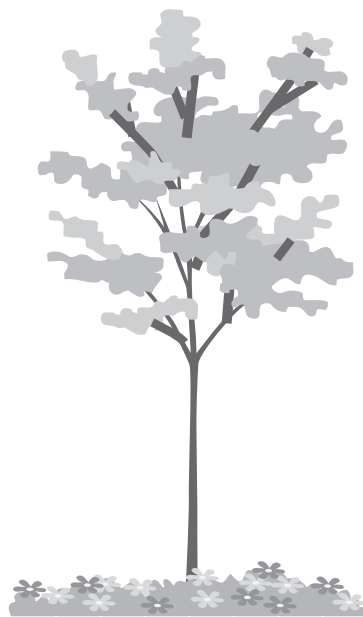
動物愛護と福祉思想の普及活動支援と 新たな展開を支援

懇話会が静岡県知事に提言した動物保護施設（アニマルシェルター）の設置に始まる動物愛護の啓発活動は、NPO法人「人と動物のハッピーライフ」の活動により、着実に成果を上げてきました。長泉町の「動物先端医療センター」をはじめ、県東部地域は「人と動物が共に生き・幸せに暮らせるまちづくり」の先進地区として歩みを進めています。

県東部で検討されている「愛玩動物飼育管理士」の養成、教育機関の設立について、広報や支援をしていきたいと思ひます。

「原・浮島地区のまちづくり構想」 実現を支援

これまで水害などの懸念があった原・浮島をはじめ今沢・愛鷹など沼津市の西部地域は、新放水路や東名、新東名のスマートインター整備、東駿河湾環状道路の西進などで、開発の可能性が高まっています。またサッカー新スタジアムや道の駅の新設、新駅設置など、この地区のまちづくりに向けて広く支援をしていきます。





ラジオマイトーク

【令和2年7月5日放送】

7月から今まで通り開業

たむらはるよし
田村 治義 氏
 ワールドプロジェクト
 ニューウエルサンピア沼津
 総支配人

▽**モットー** 実るほど頭を垂れる稲穂かな
 ▽**趣味** スポーツ観戦、囲碁
 ▽**出身地** 駿東郡清水町

〈お話のポイント〉

♠ 4年制の看護大学ができるという事で、昨年12月10日に今年6月30日をもって閉館すると決めましたが、大学設置場所がほかに移り、7月から今まで通り開業しています。
 ♥ コロナウイルス感染症の影響で3月は宿泊客が昨年比55%、売り上げが44%、4月、5月は10%台に大幅に落ち込みました。沼津市の要請で4、5月に12日間休業しました。また、静岡県の実業により体育館は4、5月に23日間休館しました。休業中は山あいにある施設などで普段できない木を切った

り、プールの清掃をしたりしていました。
 ◆ 感染対策では入口に手指消毒剤の設置をはじめ、受付窓口には飛沫防止ビニール、接客従業員はフェースガードを付けています。レストランの座席は3分の1減らしました。ラウンジも3、4席抜いて間隔を空けています。風呂場は窓を開けています。
 ♣ 県が行う観光促進のための割引クーポン券や、国が始める「Go Toキャンペーン」にも大いに期待しています。



ラジオマイトーク

【令和2年8月30日放送】

地域の活性化に協力

よこみぞ ゆみこ
横溝 有美子 氏
 第一生命保険(株)
 沼津支社長

▽**モットー** 禍福は糾える縄の如し
 ▽**趣味** 美味しいものを食べる事、美術鑑賞、ゴルフ
 ▽**出身地** 東京都八王子市

〈お話のポイント〉

♠ お客様のところに直接訪問するのが生命保険の営業でしたが、コロナ感染の影響で訪問できない時期もあり、電話やメールを使ってお客様サービスの向上に努めています。
 ♥ 地元との関係を大切にしていますので、昨年3月に静岡県と包括提携を結びました。県民のサービス向上、地域の活性化に協力させていただいています。特に今回、静岡県市町対抗駅伝に協賛し、ランニングクリニックと称して出場予定の小学生を選んで第一生命陸上部がフォームの点検をしています。

◆ 健康第一アプリは無料ヘルスケア部門では第1位のダウンロード数を誇ります。歩数計算、カロリー計算、健康に関するご案内アプリです。弊社契約者ですと給付金の請求手続き、住所変更の手続きもできます。
 ♣ 沼津支社は昭和58年に開設し、37年目を迎えています。沼津市を中心に東部地区に13オフィスがあります。営業を行う生涯設計デザイナーが約400人在籍しています。支社にはスタッフを入れると約500人でそのうち480人が女性です。

サンフロント21懇話会の会員情報
■新たに入会された方

◇ 第一生命(株)沼津支社	支 社 長	横溝有美子
◇ 沼津食品衛生協会	会 長	森田 紀
◇ (株)建設システム	代表取締役	重森 渉
◇ (株)井出組	代表取締役	井出 正浩
◇ (一社)ふじさん駿河湾フェリー	理 事 長	滝浪 勇

■会員の變更

◇ 大成有楽不動産(株)浜松営業所 浜松営業所長	佐々木道武 → 名古屋支店長	桑原 順
◇ 損害保険ジャパン(株)東部法人支社 支 社 長	藤山 茂 → 支 社 長	後藤 圭吾
◇ 静岡県農業協同組合中央会 東部支所長	秋本 智彦 → 東部支所長	望月 映延
◇ 東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社 総 支 社 長	伏見 保則 → 総 支 社 長	洪井慶次郎
◇ キリンビール(株)静岡支社 営業部部長	望月 豊久 → 営業部部長	糸島 稔和
◇ (株)SBSプロモーション 代表取締役社長	村田 潔春 → 代表取締役社長	永田 龍彦
◇ 下田市 市 長	福井 祐輔 → 市 長	松木正一郎
◇ 東海自動車(株) 代表取締役社長	早川 弘之 → 代表取締役社長	金野 祥治
◇ (一財)企業経営研究所 理 事 長	青木 孝弘 → 理 事 長	中山 勝
◇ (一財)企業経営研究所 常 務 理 事	中山 勝 → 常 務 理 事	松岡林太郎
◇ 日本政策金融公庫沼津支店 支 店 長	佐藤 真 → 支店長兼国民生活事業統轄	飯澤 貴志
◇ 西日本電信電話(株)沼津営業支店 営業支店長	大槻 善勇 → 営業支店長	山崎 克之
◇ (株)ホテルサンバレー 代表取締役	新田恭一郎 → 代表取締役	秋山 治良
◇ 三島函南農業協同組合 代表理事組合長	柿島 直人 → 代表理事組合長	藤沼 和明
◇ SMBC日興証券(株)沼津支店 支 店 長	澄田 達也 → 支 店 長	西尾 宏樹
◇ スルガコンピューターサービス(株) 代表取締役	田代 豊 → 代表取締役	佐藤 悟郎
◇ 静岡新聞社 社 長 室 長	石川善太郎 → 社 長 室 長	勝間田雅仁

■肩書の変更

◇ 公益社団法人 静岡県観光協会	望月 宏明 参 事 → 専務理事
◇ (株)シード	西島 昭男 代表取締役社長 → 代表取締役会長
◇ (株)電業社機械製作所	土屋 忠博 代表取締役社長 → 代表取締役会長